

# C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

## NOV.2014 VOL.48

広島県生活協同組合連合会  
発行 2014年11月10日



# 水 土 石 奔 流

8・20 広島土砂災害



## 特集：「大災害」

- 「広島土砂災害」を考える  
「土砂災害から見えてくるもの」…… 1-3
- ・広島土砂災害被害状況  
危険と隣り合わせの私たちの生活
  - ・あの日に起こったこと  
生協ひろしま配送担当の手記
- 第43回広島県生協大会 … 4-6
- ・特別報告：広島土砂災害の被害と支援  
広島医療生協：斉藤孝司専務理事
  - ・記念講演：「里山資本主義と生協への期待」  
NHK 大型企画開発センターディレクター  
夜久恭裕氏
  - ・地域活性化研究会シンポジウム
  - パネリスト  
国本善平（佐伯区長）  
佐田尾信作（中国新聞社論説副主幹）  
丸山法子（（社法）リエソ地域福祉研究所代表理事）  
徳永裕明（生協ひろしま執行役員）
  - コメンテーター  
夜久恭裕（NHK ディレクター）
- 会員だより・トピックス …… 7・8
- ・2015年度 広島県への要請
  - ・「国際平和デー」記念行事への参加
  - ・ミドルマネージャー研修会
  - ・「折り鶴」が2015年カレンダーに
- 事務局だより …… 9・10
- ・トップケーススタディ研修 in 青森
  - ・優秀児童を広島県生協連が表彰！
  - ・理事会報告 ・組織委員会報告
  - ・地域活性化研究会報告
  - ・福祉・介護委員会報告
  - ・編集室から
- 『日々のことから』 …… 11
- ひろしま NPO センター専務理事  
広島市災害復興連携本部副本部長  
中村 隆行

# 特集

## 広島土砂災害を考える 犠牲者 74人



2014年8月20日深夜、広島市安佐北区、安佐南区に前夜から明け方まで強い雨が降りつづいた。1時間当たり雨量100ミリを超える豪雨は、深夜3時間にわたって安佐北区可部、安佐南区の山に降り注ぎ、土石の奔流となって麓の住宅地

に被害をもたらしている。これは、地球温暖化の影響があると考えられるが、近年の全国各地の降雨状況をみると、日本列島に降る雨は、たいてい集中豪雨の様相を呈している。このたびの広島市の豪雨災害の人的・建物被害の大きさ



広島大雨災害における人的被害 広島県災害対策本部発表（9月19日）

市町名	死亡	行方不明	重傷	軽症	計	備考
広島市安佐南区山本八丁目	2				2	土砂崩れ
広島市安佐南区緑井七丁目	10		1	3	14	土砂崩れ
広島市安佐南区緑井八丁目	4		3	4	11	土砂崩れ
広島市安佐南区八木三丁目	41		1	10	52	土砂崩れ
広島市安佐南区八木四丁目	9			4	13	土砂崩れ
広島市安佐南区八木六丁目				1	1	土砂崩れ
広島市安佐南区八木八丁目	2			4	6	土砂崩れ
広島市安佐北区三入四丁目	10			1	11	土砂崩れ
広島市安佐北区三入南二丁目	1				1	土砂崩れ
広島市安佐北区可部三丁目				1	1	土砂崩れ
広島市安佐北区可部東二丁目	1		1	1	3	土砂崩れ
広島市安佐北区可部東六丁目	3		1	6	10	土砂崩れ
広島市安佐北区可部町大字桐原	1			1	2	土砂崩れ
広島市安佐北区大林三丁目			1		1	土砂崩れ
計	74	0	8	36	118	

を襲った。結果、両地区で74名という犠牲者を出し、この集中豪雨は、歴史的災害として記録されることとなった。近年、列島に降る雨は豪雨となつて降る事が珍しくなくなっている。今年になつても各地でこうした集中豪雨の被害がつづ

は、真夜中の未曾有の豪雨、遅れた避難や危険周知、もろい地質、市街化調整区域での宅地開発、といった要因が指摘されている。異変がつづく日本列島、私たちは、どのように災害に対処するべきだろうか。

# 広島土砂災害を考える

撮影：生協ひろしま 広報



広島大雨災害における住宅被害 広島県災害対策本部発表 (9月19日)

市町名	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	計
広島市安佐南区	100	84	92	968	2,035	3,279
広島市安佐北区	32	38	72	330	758	1,230
広島市西区	1		7	2	18	28
広島市中区			1			1
広島市安芸区			1			1
広島市佐伯区			1			1
安芸高田市				1	14	15
三次市			1			1
福山市					3	3
計	133	122	175	1,301	2,828	4,559

8月20日の広島土砂災害、9月27日の木曾御岳山の噴火、そして再三の台風の上陸などにより、「災害」についてさまざまな事を考えさせられる。

上に掲載されている写真は、八木・緑井地区の被害状況を、生協ひろしま広報スタッフが、この地区配送担当者に同行して撮影したものだ。次ページには、被災当日と翌日の生協ひろしま配送担当者の手記を掲載している。掲載写真とこの手記によって、私たちは今回の災害の大きさを窺い知ることができる。と同時に、「災害」についてさまざまな事を考えさせられる。

## 「忘れた頃にやってくるのが「災害」

よって、私たちの日本列島や生活環境はさまざまな危険と隣り合わせだということに気づかされる。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉が象徴するように、忘れ、そして予期せぬ事態だからこそ、災害は人にとって脅威であるといえる。

2011年3月11日の東日本大震災は、死者・行方不明2万4642名という未曾有の犠牲者を出した。広島市の豪雨被害では死者74人、住宅全壊133を含む、半壊・浸水被害4559。御嶽山噴火では死者56人、安否不明7人(10月23日現在)。災害の恐ろしさを改めて認識させる数字である。

次々と起こる災害は、私たちへの警告と教訓をたくさん示しているように思われてならない。広島土砂災害では、被害を大きくした要因に、遅れた避難勧告や危険予知、市街化調整地区の宅地開発といったことがあげられているが、これは「人災」といつてもいいのである。災害時における「公助」「共助」「自助」の今後、そして「自助」の自覚をいま改めて問い直すときにきているのではないだろうか。

## 広島土砂災害を考える

### あの日に 起こったこと

の当たりになるとそこは想像を絶するものでした。用水路は土砂で埋まり、道路は積もった泥だらけ。車は通ることは不可能で、台車も使用不可能。道路と呼べる道はなく、よくこのような状況の中でできる限りの配送をしてきたなど、この地域を担当していただいている二人の生協人としての強い使命感を感じました。それと同時に同じ支



### 生協ひろしま 配送担当者の手記

配送担当：鈴政 直樹

「これは、ひどい……」。土砂災害で配送されず、翌日に配達に行った池田リーダーとの最初の会話です。

土砂災害の当日の配送に出た、岡崎さん、池田さんは泥だらけになり、腰まで水につかりながら帰ってきました。同じ支所にいながら目に浮かぶ映像はテレビからの情報ばかり。実際に目

所の仲間でこれだけ組合員さんのために頑張ってくれる職員がいることを誇りに思いました。

災害当日に商品を配達できなかったお宅数軒に、池田リーダーと一緒に翌日お届けに伺うようになったのですが、その配達現場には道路はなく、全て持ち運びとなりました。靴は水に浸かり泥の多いところでは裸足で伺い、道なきところは川を通り、組合員さんの元へと伺いました。道中、多くの方に「こんな時でも生協は来てくれるんじゃないね」「大変じゃね」と声をかけていただきました。普段地域に入って生協の配送をさせていただいているということ、たくさんの方にお会いし、実感しました。

商品をお届けさせていただいた組合員さんの中で忘れられない方がいらつしました。藤原さんという方です。この組合員さんのお宅の前は土砂が流れ、今も川からの水が流れ、身動きがとれない状態です。事前の安否確認の連絡の時に、できることなら商品を届けてほしいということでした。8月の3回のご利用金額は、〇万円以上、食事のほとんどを生協商品でご利用いただいているように感じました。そのお宅へ池田リーダーと道なき道を5往復したでしょうか。その度に組合員さんから

感謝の言葉をいただきました。「ありがとう」「本当にありがとう」「無理はしないでいいよ」「こんなところまでごめんね」「助かります」。往復するたびに飲み物やアイスなどをいただき、疲れも半減したのを覚えています。生協商品を持たれて。組合員さんのその思いが確かに伝わってきました。帰り際に、組合員さんが注文書の提出を躊躇されている様子がわかりましたので、「必ず次週もお届けさせていただきますので」と強い気持ちをお伝えし、注文書をご提出いただきました。組合員さんへのお役立ちを生協職員になってもっとも感じられた瞬間だったかもしれません。私のなかではそれほど経験でした。

その日は一日中、道の無いところを歩き続けたので、被災地の多くの方にお会いしました。そのなかには生協組合員さんではない方もいらつしました。道が寸断されており、その上の組合員さんのお宅に伺うときに、たまたまそのお宅の庭を通らせていただくというシーンがありました。その方は組合員さんではなかったのですが、土砂災害から水道が止まり非常に困りの様子でした。「大丈夫ですか?」と声をかけると、「水道局の人?」と訊かれるほど、何度も水道局へ問い合わせをさ

れていたようです。それがずっと心に残り、その配達現場の写真と水不足の事実を所長に報告させていただきました。その30分後くらいでしたでしょうか、支所長から携帯に電話があり、「水の手配ができたから、困っている地域を教えてください」とのことでした。感激しました。目の前で災害に困っている方にも、こんなにもタイムリーに少しでもお役立てるのかと。「やっぱり生協っていいな」とつくづく感じた瞬間でした。その方にお水が無事に渡って大変喜ばれたと聞かされた時の気持ちは忘れることができません。

私は生協での経験はまだまだ短いですが、今回の安佐南支所で起きたこと、また今起こっていることは、現場で配送をしている私は、このことをみんなに伝えなくてはいけないと思います。被災地の正確な状況もそうですし、そこを配送してくれた担当者の姿、また、一人でも多く、一日でも早く被災者・被災地を救うために努めようとする生協の姿勢は、ぜひ全体で共有していただきたいと思っています。災害発生当日から、いろいろな部署から組合員さんのために、安佐南支所のために応援をしていただいております。日々感謝の気持ちでいっぱいです。

## 第43回広島県生協大会

第43回

# 広島県生協大会開催



主催者を代表して挨拶をする  
岡村会長理事

平成26年10月23日（木）、第43回『広島県生協大会』が広島市中区サテライトキャンパスひろしま大講義室において開催されました。

大会は、広島県生協連岡村会長理事の挨拶に始まりました。

岡村会長は、会場を埋めた出席者に感謝の言葉を述べるとともに、経済至上主義の今日の社会状況と世界情勢を紹介し、人と人との結びつきの希薄化、世界的な人口増加と気候変動による食料危機や自然災害の増加に



来賓を代表して祝辞を述べる広島県環境県民局長中山雅文氏

ついてふれました。そして、岡村会長理事は、8月20日の広島土砂災害による会員生協の被災状況を紹介するとともに、こうした私たちの身の回りに起こっている諸問題を解決するため、生協連が果たすべき役割について触れました。そして災害における、「公助」「共助」「自助」とくに「自助」における生協連の役割を取り上げ、今後、こうした災害に対して、広島県生協連が大きな役割を果たすべきだと強調。

続いて、来賓を代表して、広島県中山雅文環境県民局長が県知事の祝辞の言葉を述べられました。祝辞が終ると、この大会に出席いただいた広島県農業協同組合中央会小田政治常務理事、広島県労働者福祉協議会伊丹幸男会長、広島平和文化センター湯浅敏郎常務理事、広島県消費者団体連絡協議会徳田洋子会長、日本生活協同組合連合会中四国地連小林紀久子事務局長の紹介があり、式典は滞りなく終わりました。

### 募金贈呈式

広島県生協連では、土砂災害支援募金口座を開設しています。このたびは生活協同組合連合会コープネット事業連合から、広島県生協連に対して、広島土砂災害支援募金の贈呈式が行われました。コープネット事業連合からは赤松光理事長、政策推進室田川尚氏が出席。広島県生協連からは、岡村会長理事、高田専務理事、難波、岡野、横山常務理事、上田、川本、斉藤、乃美理事、小泉監事が出席し、和やかな雰囲気の中で募金贈呈式が行われました。他に、コープやまぐちさん、コープおいたさん、コープかがわさんから贈呈式がありました。



# 第43回 広島県生協大会

## 広島土砂災害 『報告』



広島医療生活協同組合  
専務理事 齊藤孝司

生協大会式典に続いて、『特別報告』と題して、広島医療生活協同組合齊藤孝司専務理事の広島豪雨土砂災害の被害状況と支援活動についての報告がありました。

齊藤専務は、このたびの未曾有の大災害が、短時間に次々と積乱雲が発生する、バックドラフト現象によるものだと言明し、各種の要因を紹介、そのために起こった被害状況に触れました。そして、当生協の広島共立病院も浸水し、医療機器と施設

関係で5〜6千万円の被害を出したことを説明。さらに、地域の被災状況を写真と説明をまじえながら、その被害の大きさを紹介しました。さらに、こうした中で、發揮された医療福祉生協連・民医連の連帯の力を披露するとともに、新病棟に移転した直後の旧病棟を避難所として提供した新聞記事をスクリーンに投映し、拠点病院の役割と今後の課題を述べて、特別報告を終わりました。



ボランティアと一緒に復旧作業に励む



特別報告会場風景

### 記念講演

NHK 大型企画開発センター  
ディレクター 夜久恭裕氏



事例を紹介しながら講演をする夜久ディレクター



興味深い内容に会場の聴衆はスクリーンに釘付け

第43回広島県生協大会の記念講演は、地域循環型社会経済システムを目指し、「誰もが安心して暮らせる持続可能な地域コミュニティの再生」を大きな目標とする広島県生協連にふさわしいものでした。

『里山資本主義と生協の役割』と題する講演を担当するのは、NHK大型企画開発センターディレクターの夜久恭裕氏。

夜久氏は、「経済100年の常識」を疑い、人々の真の豊かさとは何か、ということを取材を通じて模索した藻谷浩介氏とNHK広島取材班が手がけた、「里山資本主義」をもとに講演しました。NHKが豊富な事例をもとに、これまで日本経済が進めてきた「マネー資本主義」に疑問を投げかけます。

岡山県真庭市の製材所を中心とした試み。広島県庄原市の和田芳治さんの裏山の木でエネルギー自活を目指す事例。瀬戸内海の山口県周防大島の一夫婦のジャムづくり、島の農業を徐々に復活させ、過疎の島に若者の雇用を生み出した実績を紹介していきます。また、海の向こうの21世紀の先進国オーストラリアの「里山資本主義」を詳しく紹介。ここには、無計画で偏った植林によって山野を荒廃させた日本の「田舎」にとって、すべてが地域再生のヒントになる事例が満ち満ちていました。夜久氏はこの講演から、これからの生協が何をしなければならぬか、ということを示唆して講演を終えました。

# 第43回広島県生協大会

## シンポジウム

パネリスト：国本善平佐伯区長、佐田尾信作中国新聞社論説副主幹、丸山法子リエゾン地域福祉研究所代表理事、徳永裕明生協ひろしま執行役員、夜久恭裕 NHK ディレクター、コーディネーター：高田公喜専務理事



福社の専門家の立場から意見を述べる丸山さん



熱心な語りが続くシンポジウム会場



地域の現状を紹介する国本佐伯区長



組合員の意識変化と買物について語る徳永氏



取材時のエピソードで聴衆を和ませる佐田尾氏



参加者の意見をまとめ進行する高田専務理事



パネリスト



夜久 NHK ディレクターの事例紹介



コメントーターの夜久 NHK ディレクター

記念講演『里山資本主義』に続いて開かれたのは、「地域活性化研究会ミニシンポジウム」。広島県生協連が目指す「地域再生」のための「地域活性化研究会」のこれまでの実績をシンポジウム形式で紹介しました。

シンポジウムのコーディネーターは、広島県生協連高田公喜専務理事、出席パネリストは、広島市国本善平佐伯区長、中国新聞社佐田尾信作論説副主幹、リエゾン地域福祉研究所丸山法子代表理事、生協ひろしま徳永裕明執行役員、コメントーターとしてNHK大型企画センター夜久恭裕ディレクターの6名が参加して地域の興味深い現況が紹介されました。

コーディネーターの指摘で最初に発言したのは、国本佐伯区長です。国本氏は、広島市でも古い住宅団地や中山間部を含む佐伯区の現況をスクリーンを通じて訴えます。高齢化する住宅団地を多く抱え、過疎化する山

間部を含む佐伯区の現況は、まさに日本社会が今おかれている地域の典型です。国本区長の事例を受けて、全国でも指折りの広島市の地域が高齢化社会に陥ったなかで、福祉の立場から何が求められ、そして何ができるかという話題を田舎の高齢者

の足である「軽トラ」をキーワードに、これからの地域の福祉について話しを提供したのは丸山さんでした。

中国新聞社の佐田尾氏は、山口県周防大島出身の民俗学者宮本常一の業績を取り上げ、西中国山地の樽床（聖湖）における地域の人々が、厳しい風土の中で懸命に失うまいとした「古風」の「共助」について語りました。

買物という観点から「共同購入」の生協ひろしま徳永執行役員は、組合員の意識変化による共同購入から個別配達への購買変化、また、買物難民に対する生協としての役割について語ります。

コメントーターの夜久ディレクターは、地域には実力があるのでは、と一つの事例として山口県周防大島のジャムづくりが、衰退した島のみかん産業や農業を再生させ、島に多くの若者の雇用を促した面白い話しを披露。

その後、お互いに事例や意見を出し合いながら、コーディネーターの「これからの地域に何が必要ですか？」という問いに、皆さんは、「伝統的な仕組みに学ぶ、新しい仕組みづくりが大事では」という結びの言葉で、シンポジウムを終えました。

## 広島県への要請・記念行事への参加

### 広島県へ2015年度（平成27年度）に向けた要請を行いました

広島県生協連では、毎年秋季に広島県（環境県民局）に対して要請を行っています。

今年も、2015年度（平成27年度）に向けて、広島県に対して具体的な要請を10月8日に県庁環境県民局長室にて行いました。

広島県からは、中山環境県民局長、川上県民生活部長、消費生活課山根課長、地域政策局平和推進プロジェクト・チーム中島担当課長、地域福祉課岡本主幹、消費生活課片山主幹が出席、広島県生協連からは、岡村会長

理事、高田専務理事、馬場常務理事、盛谷常務理事、岡野常務理事、横山常務理事、福島事務局長が出席しました。

はじめに、広島県生協連岡村会長理事より中山環境県民局長へ要請文の受け渡しを行い、岡村会長理事より挨拶があり、続いて中山環境県民局長より挨拶をいただきました。

次に高田専務理事より4つの分野（介護・医療、地域福祉・地域連帯、消費者行政・消費者被害防止、平和関連）、9項目にわたって要請の趣旨説明を行

い、続いて要請項目について各課長、主幹から回答があり、その後懇談を行いました。中山環境県民局長、各課長、主幹から生協の活動に対する理解と協力への感謝、今後の取組への協力依頼等がありました。

最後に、高田専務理事から、広島県行政と連携を強化する中で、持続可能な地域経済、産業振興と地域づくりをすすめる豊かな地域社会の実現に向けて、協同組合の理念を貫き社会貢献をすることを述べて終了しました。



要請文の受け渡し



懇談の様子

### 「国際平和デー」記念行事への参加



核兵器廃絶を祈念し横断幕を掲げる岡村会長（左から3番目）、広島県被団協 坪井理事長（左から4番目）、広島県被団協 吉岡副理事長（左から5番目）、広島平和文化センター 湯浅常務理事（左から6番目）

国連では、毎年9月21日を「国際平和デー」と定め、世界の停戦と非暴力の日としてこの日一日敵対行為をやめるよう呼び掛けています。広島県生協連は、この趣旨に賛同し、今年も広島平和記念公園で広島市・広島平和文化センターが開催した記念行事へ参加しました。

二つの広島県原爆被害者団体協議会と平和活動に取り組み高校生と共に献花を行った後、「2020年までの核兵器廃絶

を」という平和首長会議の横断幕を掲げ、原爆死没者慰霊碑に黙とうを捧げるとともに、「平和の鐘」を鳴らし、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を祈念しました。

この取り組みは、全国に普及することを願います。広島県生協連としては、今後も広島市（広島平和文化センター）の取り組みに協力し、連携を大切にしていきます。

## ミドルマネジャー研修会・折り鶴昇華再生事業



広島医療生協 斉藤専務理事



グループワークの様子



日本生協連 藤田部長

**2014年度人材育成プログラム  
「ミドルマネジャー研修会」を運営トップと  
語ろうかい！を開催しました。**

10月16日（木）広島中央保健生協けんこうプラザにおいて、福祉介護事業所の事業所長を対象とした「ミドルマネジャー研修会」を開催しました。

今年初めて県連の介護福祉委員会が企画し、会員生協へ呼びかけ、28名のミドルマネジャーが参加しました。

最初に「介護保険制度改定内容と生協の取り組み」と題して、日本生協連組織推進本部福祉事業推進部の藤田部長よりご講演をいただき、最新の介護保険制度改定のポイントや問題点、今後の動きなど分かり易く説明をいただきました。参加者からは「最新の制度改定の情報が聞けて理解が深まった」「目指すべき方向性について具体的に考えることができて良かった」などの感想をいただきました。

続いて、広島医療生協の斉藤専務理事からは「介護について思うこと」と題し、ご自身の親の介護経験から学んだ、利用者の思いに伝えるための「医療と介護」。そこに生協という組織がどう向き合っているのか、お話しいただきました。地域に根差している生協の良

さをしっかりと理解し活かしていくことが必要で、また、全国の経験に学ぶことのできる生協の組織は強みであり、生協同士が連携し一緒に取り組んでいく姿勢の大切さを改めて考えるきっかけになりました。

午後からは、サブタイトルでもある「経営トップと語ろうかい」と題して、グループワークに各生協の専務理事も加わり、午前中の講演の感想や質問、また日常的業務や法令的な課題の対応など困っていることを出し合い討議を行いました。また、今後の生協の福祉介護事業の役割と課題についてグループ事に発表し全体で共有しました。

最後に、各生協の専務理事より研修の総括をいただきました。広島中央保健生協の盛谷専務理事は「顔の見える関係が出来たことが今日の研修の大きな成果。何かあった時に生協同士で助け合える関係ができた」と総括されました。

県連では、同じ生協の理念を共有する立場の人と一緒に学び交流する研修を、今後も行っていきたいと思います。

## 「折り鶴」が2015年 カレンダーに

生協が「平和の折り鶴」の「昇華再生事業」に参入

国内外から広島平和記念公園（広島市中区）の「原爆の子の像」には、年間約10トンの折り鶴（約1000万羽）が寄贈されています。生協は、広島市の昇華への取組みに賛同し、その内、3トンを広島市から受け取り、昇華再生事業（\*1）として、平和の願いを込めた2015年カレンダーを作成し販売することになりました。（販売開始は11月10日より）

広島県内の生協がタッグを組み、全国へ普及

この事業は、生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合（以下：コープCSネット）、生活協同組合ひろしまが中心になって、全国の生協に協力を呼びかけ、平和への思いを積極的に推進していきます。

障害者の就労支援、社会参加を推進します。

この事業は、障がい者の自立支援施設（株）ハートコープおのみちや（株）ハートコープひろしま（\*2）で再商品化します。また再生するには、折り鶴の事前選別作業が必要で、生協組合員がこの事業の意義や目的に共感、

賛同いただくことで、取り組みを広げていく予定です。

全国の生協で思いを一つにしてこの活動が広がり、平和の願い、思いが継承されていくことを願っています。

（\*1）「昇華」とは：情念などがより純粋な、より高度な状態に高められること。  
（\*2）「株）ハートコープおのみち」はコープCSネットの特例子会社。「株）ハートコープひろしま」は生協ひろしまの特例子会社。特例子会社とは、障がい者の雇用促進を目的として作られた一定の条件を満たす会社のことをいいます。



1次加工された平和の折り鶴



（株）ハートコープおのみちでの加工作業

# トップケーススタディー研修会 in 青森

## 青森保健生協と生活協同組合コープあおもり事業連携 あおもりコープフーズの取り組みを学びました。



弁当は介護施設の調理場で再加熱



デイケア「ふきのとう」



右端が鎌田敦子社長

10月2～3日、広島県生協連は、会員生協のトップ層を対象に、先進事例を視察するトップケーススタディー研修を企画しました。青森県の医療生協と購買生協で事業開発された、(株)あおもりコープフーズのあおもりセントラルキッチンと高齢者の集合住宅の事業について学びました。



1日目は(株)あおもりコープフーズのあおもりセントラルキッチンの施設と事業の現状を視察しました。病院や介護事業所への給食提供や見守りを兼ねた地域へのお弁当配達サービスを事業として取り組まれていました。もともと住み慣れた地域で「健康で安心して暮らしたい」という地域の声に、「生協がどう向き合えるか」その手法として生協間連携を強化し、地域のまちづくりに貢献しようと、7年かけて準備された経緯があります。

それぞれの生協の強みを生かし、生協の横の繋がりを強めるように取り組まれた、青森県生協連の活動を知ることができました。

それぞれの生協の強みを生かし、生協の横の繋がりを強めるように取り組まれた、青森県生協連の活動を知ることができました。



美味しそうなバランスのとれた朝ごはん



表彰状授与

### 優秀児童を広島県生協連が表彰！

10月26日(日)、第10回ひろしまフードフェスティバルが広島城周辺で開催され、「つくってみようよ！自分の朝ごはん」コンテストの表彰式がメインステージでありました。

『子ども未来づくり広島応援隊』が主催するこのコンテストは、広島県下の小学生を対象に、自分で朝ごはんを5日間作り、その出来栄え(見た目、バランス、家族の評価等)を競うもので、総数1581件の応募があり、審査の結果、22件が優秀賞に選ばれ、この日表彰されました。

広島県生協連は、この表彰式に福島事務局長が参加し、賞状と盾、「生協賞」のCO・OP商品詰合せと図書カードを井上成美ちゃん(小5)に授与し、その功績をたたえました。

を活かしていけるように、これからの県連の果たす役割と地域との繋がりを創造していく大きなヒントになりました。1つの生協ではできなかったことも連携することで、「ゆりかごから墓場まで」生活協同組合の理想に近づくことができるのだと感じることができた研修となりました。(報告者 為政圭子)

日程 2014年10月2～3日(金)

場所 青森県(あおもりセントラルキッチン・サービス付高齢者住宅)

研修目的

- ①医療生協と購買生協による事業連携を学ぶ。
- ②社会福祉法人、医療生協、薬局法人による事業連携を学ぶ。

参加者

- 盛谷専務理事(広島中央保健生協)
- 斉藤専務理事・本浦部長(広島医療生協)
- 横山専務理事・岡崎部長(生協ひろしま)
- 高田専務理事・為政(広島県生協連会)

# 理事会・委員会・研究会・報告

## 理事会公報

【日時】 2014年9月25日(木)  
13時30分～15時30分

【場所】 広島県生協連3階会議室

【出席】 20名中18名出席

(理事17名中15名出席、監事3名中3名出席)

(出席理事) 岡村、高田、馬場、盛谷、岡野、横山、難波、高橋、斉藤、上田、川本、乃美、吉山、武田、金葉

(出席監事) 小泉、花田、堀

### 【議決事項】

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

(第1号議案) 8・20広島豪雨土砂災害関連について

(第2号議案) 第1回常務理事会専決事項

1 2015年(平成27年)広島県への要請事項について

2 団体の公職承認の件

(1)生活支援サービス指導員

3 2015年4月・5月NPT

再検討会議への派遣について

(第3号議案) 第43回広島県生協大会について

大会について

### 【協議・報告事項】

各事項について資料に基づき提案説明を行い、協議の結果、全事項について確認した。

(第4号議案) 2014年度平和関連行事のまとめについて

(第5号議案) 一般活動報告

1 各委員会活動報告(審議会組織委員会、地域活性化研究会) 2 2014年度中堅職員研修会について 3 2014年IYC特別研究会

平和学習会について

4 平和の折り鶴昇華再生事業の取り組みについて

5 介護の日フェスタ「広島について

## 第2回

## 組織委員会報告

開催日 10月17日(金)

会場 広島県生協連3階会議室

出席(敬称略)

佃(広島県学校生協)、檀浦(広島県高校生協)、岡吉(広島医療生協) 上田、戸田、森畠(生協ひろしま)、藤原(広島中央保健生協)、山本(広島県労済生協)、山田、阿久根(日本生協連)、高田、福島

為政(広島県生協連)

【主な内容】

1. 2015年度広島県への要請事項について

2. 第43回広島県生協大会について

3. IYC特別研究会(平和)学習会について

4. 2015年度平和活動(素案)について協議

## 第8回 地域活性化研究会報告

開催日 9月16日(火)

会場 広島県生協連6階会議室

出席(敬称略) 国本(広島市佐伯区長)、佐田尾(中国新聞社論説副主幹)、丸山(リエゾン地域福祉研究所代表)、尾崎(日本生協連)、徳永(生協ひろしま)、高成田(日本労働者協同組合連合会)

センター事業団本部長、乃美(福山医療生協)、高田、上田、福島(広島県生協連)

【主な内容】

1. 先進事例視察報告

①徳島県西郡神山町視察報告(国本委員)

②広島県神石郡神石高原町視察報告(佐田尾委員)

2. 第43回広島県生協大会 地域活性化研究会ミニシンポジウムについて

①ミニシンポジウムの進行について

②登壇者の決定(国本委員、佐田尾委員、丸山委員、徳永委員)

3. 地域活性化研究会報告書(2次案)について

4. 特別視察(福島県)について

## 第2回 福祉・介護委員会報告

開催日 9月12日(金)

会場 広島県生協連3階会議室

出席(敬称略) 盛谷(広島中央保健生協)、斉藤、本浦(広島医療生協)、岡崎、西谷(生協ひろしま)、高田、為政(広島県生協連)

【主な内容】

1. 介護保険制度改定に向けた活動について進捗状況の確認を行った。

①介護保険制度改定の内容理解する学習会開催報告(参加者46名)

②市区町村(広島県)生協の地域資源と背景一覧表

③市町訪問

2. 新たな総合事業の展開含む生活支援サービスについて

3. 生協版地域包括センター構想について

4. 情報交換(各生協より福祉事業実績の報告)

5. トップケーススタディ研修(青森県)について



**広島土砂災害支援募金**  
10月31日現在、183団体・個人から5868万7662円の募金が寄せられています。募金は広島市義援金口座へ拠出します。

平和とよりよき生活をめざして

**広島県生活協同組合連合会**

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11  
第7ウエノヤビル 5F  
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100  
E-mail: kenren.h@proof.ocn.ne.jp  
URL: http://hiroshima.kenren-coop.jp

【編集室から】  
今年は大雨による災害が度々全国に及んだ。台風も列島に再三上陸して被害の爪痕を残している。そして、日本は、火山列島ということを改めて証明するかのような木曾御岳山の噴火である。私たち日本人は、危険と隣り合わせの地に暮らしているということだ▼こうした災害が起きるたびに聞かれるのが「何故事前に予知できなかったのか」という言葉である。そして、「事」が起こった後に関係者から聞かれるのが、「想定外でして」というものだ。こうした自己弁護の文句は、東日本大震災の後で、政府と電力会社から、嫌というほど国民は聞かされた▼広島土砂災害では、気象台や市は「避難勧告」の遅れを認めたが、最終的にはその責任には沈黙。御岳山の噴火でも、3、4日前に火山活動の微動を確認しておきながら、広報せずに、多くの登山者が命を失った。予知連会長は「噴火予知は難しい」という言葉のみ。「公助」、「共助」、「自助」という言葉があるが、改めて、「共助」「自助」を自身で真剣に考えるときになってくるのだと思う。(Y)

# 8.20 広島市土砂災害 と ボランティア活動



## 日々のことから

ひろしま NPO センター専務理事  
広島市災害復興連携本部副本部長

### 中村 隆行

なかむら たかゆき

広島県安芸高田市（吉田町）生まれ佐伯区在住。広島大学大学院社会科学部研究科（マネジメント専攻）博士後期課程在学（広島修道大学大学院で法学修士取得）  
内閣官房 地域活性化伝道師  
広島市災害ボランティア本部 副本部長  
（10月1日より、広島市災害復興連携本部）

1997年ひろしま NPO センター設立に参画、常務理事・事務局長。2009年 専務理事・センター長就任、現在に至る。公益財団法人コミュニティ未来創造基金ひろしま、ファンドレイザー・プログラムオフィサー。障害児（者）と手をつなぐ県会議理事。広島市男女共同参画審議会委員、呉市、三原市、尾道市各市民協働推進会議 委員。福祉、環境、国際貢献、災害救援、まちづくり、中山間地支援など20分野に渡る非営利組織の立ち上げ、運営相談、資金助成などの支援を行う。日本 NPO 学会理事、広島経済大学、広島文化学園大学の非常勤講師。

### 豪雨が襲う

8月19日、16時3分、広島地方気象台が広島市内に大雨洪水注意報を発表。一旦注意報に切り替る。23時33分注意報を解除するが、翌20日0時57分再び洪水注意報を発令。20日1時15分県庁に災害対策本部を設置。20日3時21分安佐南区山本8丁目「男の子2人が生き埋め」と最初の119番。3時30分、市が対策本部を設置。同3時30分緑井8丁目で土石流。43分八木3丁目で土石流。55分安佐北区可部東で土石流。4時1分八木3丁目民家倒壊と生き埋め情報の119番。・・・広島市の安佐南区、安佐北区を局地的な豪雨が襲い、死者74名、負傷者44名、避難対象者2335人、全壊1333件、半壊1222件、一部損壊174件、床上浸水1300件、床下浸水2811件という大きな被害をもたらした。

### 災害ボランティアセンター設置へ

広島市では、災害時に、復興支援にあたるため、災害ボランティア活動連絡調整会議が組織化されている。「生協ひろしま」をはじめ「ひろしま NPO

センター」を含め22団体によって構成されている。8月20日、広島市土砂災害を受けて15時より、広島市、市社会福祉協議会、ひろしま NPO センターの三者協議を行い、広島市災害ボランティア本部の設置が合意された。21日13時30分に第一回災害ボランティア活動連絡調整会議が招集され、22団体をはじめ、オブザーバーを含めて30名余りが出席。冒頭より、安佐南区の災害ボランティアセンターの設置場所を巡り意見が出される。各区では、災害ボランティアセンター設置について、あらかじめ設置場所が予定されている。安佐南区の場合、中須の総合福祉センターが設置場所と定められていたが、使用できないとの返事が区役所の回答。出席メンバーからは、「どうなっているのか、訓練までしておいて、いままさら設置場所にできないとはどういうことか」との意見が相次ぐ。市と引き続き交渉することとして、とりあえず、54号線沿いの庄原産直市跡地（八木サテライト）を災害ボランティアセンターとすることとした。22日「安佐南区災害ボランティアセンター（八木）」「安佐北区災害ボランティアセンター（安佐

北区総合福祉センター内）」設置。たった1日で、必要な機材や道具を整えなければならぬ。現場は戦場のような慌ただしさであった。23日よりボランティア受入と土砂かきの活動が始まる。

水面下では、安佐南区のボランティアセンター設置場所についての協議が進められていた。25日、安佐南区総合福祉センター内に災害ボランティアセンターを変更、やっと体制が整う。

### 大勢のボランティアが集中し 混乱し広島土砂災害ボランティアセンターの特徴

8月23日から9月末までの活動では、4万1679名のボランティアの参加があった。保護者に連れられた小学生・中学生から70才の高齢者の方まで、老若男女、様々な方の参加があった。夏休みということもあって大学生や高校生の参加も多かった。1か月余りで、4万を越えるボランティアの参加は全国各地の自然災害復興にたちあげられてきたボランティアセンターの中でも抜きん出ている（もともと阪神淡路大震災や東日本大震災は除いてではあるが）。

今回の災害は、安佐南区は都市部の住宅団地で被災したという特徴と安佐北区はどちらかというと特徴が異なる。局所型の災害であったことで、都市部の住宅団地では被災をまぬがれたところでは日常の生活が続けられており、駐車場の不足や交通渋滞という問題を浮き上がらせた。また、メディアの影響か、一日に2800名という大勢のボランティアが集中してしまい、長時間の待ち時間が発生したり、ボランティアを受け付けられず、お帰りのお願いされたこと、苦情が多く寄せられたことも課題であった。ニーズ調査不足や現場の状況や本部からの情報伝達の面でも課題が残された。ボランティアセンターのスペース的な面や駐車場の確保、交通渋滞といった都市型災害の課題も浮上した。発災から2ヶ月あまり、第一期の緊急支援から、第二期の個別被災者の生活支援へと活動の質も変化してきている。さらに今後は、第三期として被災地の復興支援の時期に入り、生活協同組合への期待も高まっている。